



図27 「大伝馬町の木綿問屋」日本橋3丁目

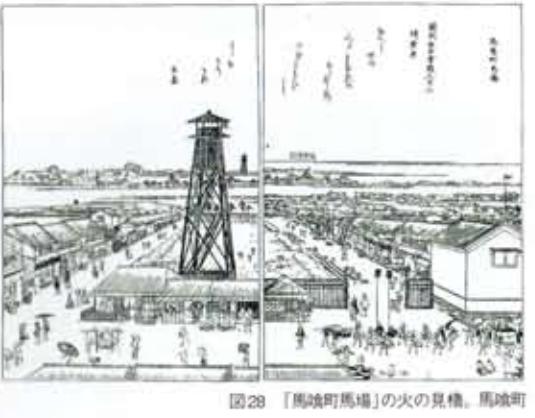


図28 「馬喰町馬場」の火の見櫓。馬喰町



「歴史と文化の散歩道」案内板。常磐橋の近く



日本銀行本店（常磐橋附近）

■ 脊わう舟運路

江戸城が完成（1636～39年頃）し、舟運路が整い経済活動の中心が江戸湊になると、全国から集まる物資は、流通問屋を経て仕分けされ細分化されて水路網を通して大名屋敷、寺社、町民へ配分されるルートが確立された。この流通過程に「河岸」が利用された。「河岸」の分布図を見ると、日本橋川を軸にさまざまな河岸があったことがわかる（図33）。舟運が栄えていた時代に描かれた絵図を見ていくと「舟」を題材にしたもののが数多く見られる。それらの絵には舟と人の関わり、舟と荷揚げ場の脇わい、舟上の遊興、水上を往来する舟運風景など、絵図の題材は多彩であり活気になる。

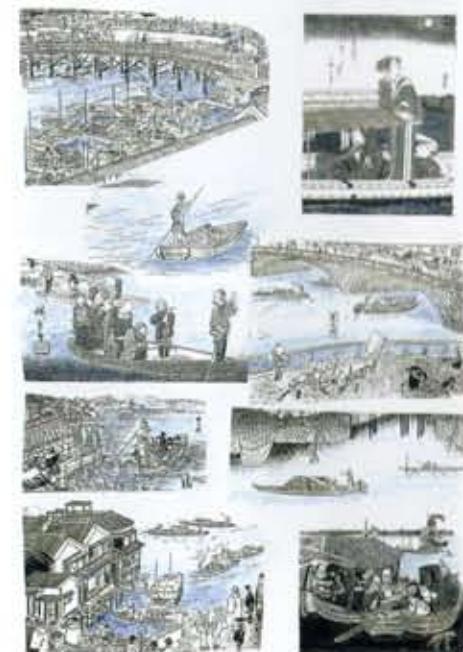


図29 水路を行き交う舟と人、そして「河岸」の風景

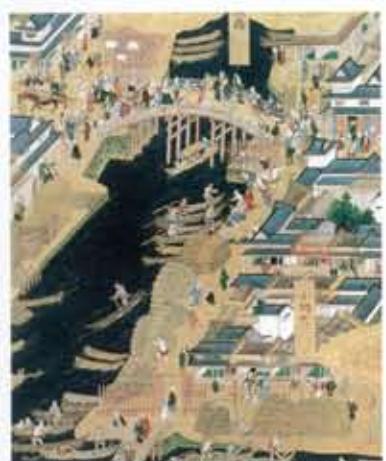


図30 関田川三画あたり花見船団（部分）
いろいろ（昭和初期まであった）



図31 日本橋界隈の活気に満ちた脇わい



神田川（柳下流に停泊する川舟の姿様）

図32 三川周辺で活躍した舟のいろいろ（昭和初期まであった）



図33 明治20年ごろの水路と河岸の名

■ 風景の水々しさ

数々の絵図の中には、目線を上空で停止している（鳥瞰図法）と仮想して、広範囲でしかも遠望まで表現した作品が多くなる（図35）。それらの絵図の中には、三川の水面が背景にあったり、モチーフになっているものもある。絵図の主題は、花・鳥・雁・月や、雲・雨・波・霞光など自然構成物が多いが、時には、祭事用の旗や小道具だったりする場合でもその背景に風景が詳細に描かれており、絵図を鑑賞するとそのコントラストに驚かされるときもある。江戸名所図絵集中には画面いっぱいに街道、街並、川辺の様子などが克明に表現したものもある。これらは、往時の都市の空間構造を読み解くのに貴重な資料であるとともに将来の展示資源の在り様を示す手がかりになる（図36）。



図34 「昌平橋聖堂神田川」（広重画）



図35 関田川の花火風景

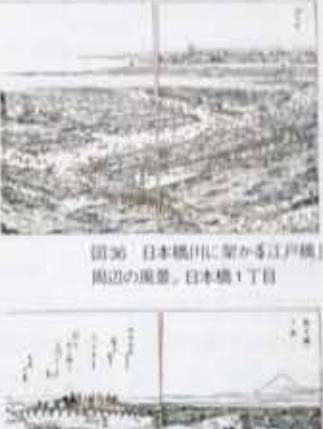


図36 日本橋川に架かる新大橋（戸塚）周辺の風景。日本橋1丁目



昭和27年当時の日本橋の風景

■ 親水行為が展開された空間

絵師たちが描いた浮世絵や名所図絵などには庶民が水辺のほとりで戯れるさまざまな情景を色鮮やかに表現したものが数多くある。その絵図の中の人々の行為は、水辺の散歩姿、水面にせり出た「テラス」の上の夕涼みの光景、流水を背にした花見・月見・花火見物であったり、舟上の遊びであったりする。これらの絵図で共通するのは水辺を目いっぱい楽しいもの、美しいものにして利用する江戸庶民の心意気が伺えることである。今では、それらの絵図の情景を現地で見ることはできない。だが幸いにも絵図に表現されている水面が残されているし、水路をかたづくった石積護岸や、都市空間の輪郭などが残っている。親水行為の体感空間を三川に展示するには、絵図に描かれた親水行為を可能にしている空間条件を取り上げ、現在の水辺を改良し絵図のイメージに合致する親水行為の装置を再現することである。



図38 「関田川壁の花見」（清長画）



図39 水辺で憩う乙女（春信画）



図40 「男女納涼図(部分)」(豊廣画)



図37 関田川三画に架かる新大橋（戸塚）の風景（左奥後方に承代橋が見える）



図41 「めだかすくい」（春信画）。魚をビードロ（ガラス壺）に入れて飾める少女

図38 「関田川壁の花見」（清長画）

図39 水辺で憩う乙女（春信画）

図40 「男女納涼図(部分)」(豊廣画)

図41 「めだかすくい」（春信画）。魚をビードロ（ガラス壺）に入れて飾める少女